

# 切迫流產 · 切迫早產



# 切迫流産

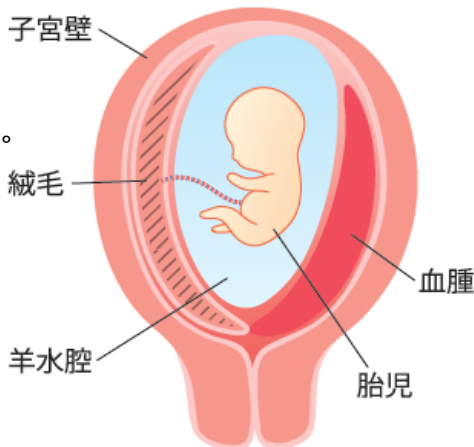
切迫流産とは、  
今後流産となる心配のある状態のことです

## 【症状】

妊娠 21 週までの性器出血や  
おなかの張り・痛みなどです。

- ◆妊娠初期の性器出血は  
婦さんの 4 人に 1 人に  
認められる症状であり、  
エコー検査では  
「じゅうもうまくかけっしゅ絨毛膜下血腫」を  
認めることがあります。

多くの場合は自然に治まり、流産にまで進むことはまれです。



初めて症状が出た場合には診察が必要ですので、  
病院に連絡してご相談ください。

状況によっては緊急の受診が必要なことがあります。

- ◆妊娠初期に下腹部の軽い痛みや違和感を覚えることはよくあります。子宮の増大にともなう症状であり、自然に治まることが多いです。

出血を伴う場合や痛みがある場合には  
病院に連絡してご相談ください。



妊娠初期の切迫流産に対してははっきりと効果のある治療法はありません。

安静にしすぎることは治療効果があきらかではないうえに、お母さんの体への悪影響もあるため勧められません。自宅でゆっくりとした最低限の日常生活をしてもらう場合が多いですが、症状に応じて張り止めを使用する場合があります。また、出血が多い場合や長く続く場合などは入院することもあります。

# 切迫早産

切迫早産とは、  
今後早産となる心配のある状態のことです

## 【症状】

妊娠 22 週から 36 週の性器出血やおなかの張り・痛みなどです。  
この時期に破水がおこった場合も早産となる心配が強くなりますので、切迫早産にあたります。また、症状をとまなわずに子宮頸管がとも短くなった場合も切迫早産にふくまれます。



## 【治療】

切迫早産には様々な程度ものがあります。

症状が軽度であり、子宮頸管長の長さが保たれている場合には**自宅安静**で様子を見ることが多いです。おなかの張の感覚が気になって不安な場合には、**張り止めの飲み薬**を処方されることがあります。しかし、子宮口が開いてくる場合や破水・出血をとまなう場合には**入院が必要**です。妊娠週数によって治療の内容は異なりますが、早い妊娠週数では妊娠を続けるための**張り止めの点滴治療**や赤ちゃんの成熟を促進する**母体ステロイド治療**などを行います。

早産のリスク因子はいろいろとありますが、これまでに早産をしたことがあることと子宮頸管長の短縮が強いリスク因子です。

普段と違うおなかの張りや性器出血、水っぽいおりものがある場合には受診が必要です。特に妊婦健診の際に早産のリスク因子を指摘されている妊婦さんは**早めに病院へ連絡を**してください。





地方独立行政法人 大阪府立病院機構  
大阪母子医療センター

<産科>

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840

患者支援センター TEL 0725-56-1220

FAX 0725-56-5605